

- 25 牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法（平成15年6月11日）技術の高度化及び牛海綿状脳症の感染・発症機構に関する研究」 主任研究者 佐多徹太郎 国立感染症研究所感染病理部
- 26 平成13年度厚生労働科学研究費補助金 厚生科学特別研究事業 「牛海綿状脳症（BSE）に関する研究」 主任研究者 品川森一 帯広畜産大学 獣医公衆衛生学

## (参考1) 「今後のために」

### 3. 3. 1 SRM 除去によるリスク低減効果の(準)定量的リスク評価モデル(私案)

これまで、と畜場におけるリスク回避措置を定量的に評価するためのモデルが提案されることはなかった。これは、と畜場での工程をリスクの重み付けとしてモデル化することが困難なためである。今回、私案として、リスク回避のモデルを作成した。数字は決して科学的根拠のあるものではない。しかし予防医学的措置を見越して評価するには、モデルが不可欠と考え、またリスク管理の目標とその有効性評価にも、こうしたモデルが必要と考え私案したものである。

定量的暴露リスクの考え方（モデル）

と畜場 BSE 検査 は 2001 年 10 月 から開始。	ピッシング	脊髄吸引	背割り後 洗浄	硬膜剥離	リスク ポイント	特定危険部位の 除去は 2001 年 10 月から開始。
と畜場検査なし の場合は 20 ポイン ト加算	する	しない	しない	しない	20	特定危険部位の 除去をしない場 合は 20 ポイント 加算
			する	しない する	18 8	
		する	しない	しない	15	
			する	しない する	10 6	
	しない	しない	しない	しない	10	
			する	しない する	6 4	
		する	しない	しない	4	
			する	しない する	2 1	

定量的モデルに従い 2001 年から 2004 年 12 月までのリスク回避効果及び、今後ピッシングを現在の 50%減らし、脊髄硬膜剥離を 90%実施した時のリスク回避効果をモデルで試算した。

今後、リスク評価に必要な研究を行い、科学的な根拠のあるモデルにする必要がある。

BSE検査	ピッシング	脊髄吸引	背割り後洗	硬膜剥離	リスクポイント	SRM	
2001年10月前 検査なし 20	する	しない	しない	しない	20	2001年10 月前除去 なし 20	60
2002年12月 全頭検査 1	する	しない	する	しない	18x0.1	脊柱の 除去なし 4	14.6
		する	しない	しない	15x0.4		
			する	しない	10x0.3		
	しない	しない	する	しない	6x0.1		
			する	しない	2x0.1		
2003年12月 全頭検査 1	する	しない	する	しない	18x0.1	脊柱除去 1	8.1
		する	する	しない	10x0.7		
	しない	する	する	しない	2x0.1		
				する	1x0.1		
2004年12月 全頭検査 1	する	しない	する	しない	18x0.1	脊柱除去 1	6.3
		する	する	する	6x0.7		
	しない	する	する	しない する	2x0.1 1x0.1		
見直し目標 21ヶ月以上 査 1	する	しない	する	しない	18x0.1	脊柱除去 1	3.2
		する	する	する	6x0.1		
	しない	する	する	する	1x0.8		



### 3. 4. 1 飼料規制によるリスク低減効果の定量的リスク評価モデル（私案）

これまで、飼料製造におけるリスク回避措置を定量的に評価するためのモデルが提案されることはなかった。これは、交差汚染を含め飼料工程の全てをリスクの重み付けとしてモデル化することが困難なためである。今回、私案として、リスク回避のモデルを作成した。数字は決して科学的根拠のあるものではない。しかし予防医学的措置を見越して評価するには、モデルが不可欠と考え、またリスク管理の目標とその有効性評価にも、こうしたモデルが必要と考え私案したものである。

飼料に関する定量的リスク回避の考え方（モデル）－1

